

Noto PLUS

9



広報のと
第151

平成29年9月1日発行

発行：能登町 ■編集：広報情報推進課
〒927-1049
石川県鳳珠郡能登町宇出津新1字1-9-7番地1

TEL: 0768-110000
能登町 URL: <http://www.town.noto.lg.jp>
Eメール: info@town.noto.lg.jp



南総安房の藩田の聖里里見家は戦国の勲烈に破
れ遺跡をたてた父の遺言により大塚信乃は伯
吉利成の元へ名刀村雨丸を献上しお家の
再興を願う。出る為伯父二人と共に旅立つ。名
歌に伯父は信乃を川に沈め刀の刀身のみを
すり替えた。信乃はもうとも知らず成氏に
刀を献上したのであった。これを成氏に
成氏は現八を捕えよう命し屋根の上まで
追いつた。二人は共に根川に飛び込み舟
で二人は共に同志であったことを知る

町の「らっりん」満載に のっとりん号

発進!

7月24日、いよさか広場で「のっとりん号」のお披露目式が行われました。町ではふるさと能登町応援寄附により、全国の方々からたくさん応援をいただいております。今回「のっとりん号」は全国の



能登町サポーターの応援により導入されました。町ではふるさと能登町応援寄附の啓発車両として、また町の観光PRに町内外で幅広く活用されます。「デザイン」には、のっとりんをモチーフに町の特徴を大きく描いてあり、式に参加したひばり保育所の園児は可愛らしいのっとりんに目を輝かせていました。

車体の進行方向右側には町花「のとキリシマツツジ」、左側には「恋路海岸」が描かれている



町内の保育所を巡りご挨拶。園児の笑顔があふれる
=しらさぎ保育所=

神和住純 古希記念 エンジョイテニス フェスティバル 2017



昨年のテニス教室の様子

町にゆかりのある元プロテニスプレイヤーの神和住純さんを招き、「エンジョイ」を合言葉に、2日間にわたって大会が開催されます。一般・ジュニアを対象としたプロによるテニス教室も実施されます。ぜひご観戦ください。

参加児童
募集中!

神和住エンジョイテニス〈プライベート〉 プロと一緒にプレイ! ちびっ子テニス体験

通常よりも速度が遅いボール、短いラケット、小さいコートを使い、誰でも簡単にテニスが楽しめるプログラムです。

日時 10月13日(金) 15:30~16:30
場所 能都健民テニスコート(雨天時はWAVEのと)
対象 保育園児(年長さん)、小学1、2年生
料金 無料
定員 先着30人(定員になり次第締切り)
※詳しくは藤波運動公園までお問い合わせください。

日時 10月14日(土)~15日(日)
8:30~

場所 藤波運動公園
能都健民テニスコート

藤波運動公園 ☎ 62-3884



「広報のと」9月号の印刷費は一部当たり33円です。



この印刷物は、EPAのゴールドプラス基準に適合した地球環境にやさしい印刷方法で作成されています。
E3PA: 環境保護印刷推進協議会

完成 縄文小屋

—平成の能登に現る

能登町真脇に位置する北陸最大級の縄文時代の遺跡「真脇遺跡」。平成26年度に行われた発掘調査で、石器で加工された「ホソ付き部材」が新たに出土した。これを機に、これまでに真脇遺跡で発見された建築部材や木柱根などをとくに、縄文時代の道具や技術を想い、当時の住居を復元する取り組みが進められてきた。

平成28年の春からは建物本体が作られており、8月5日、強い日差し照りつける真夏の青空の下、ついに「縄文小屋」は平成の能登にその姿を現した。

町民をはじめとするのべ708人の一般の参加者や大工、考古学研究者などの専門家から指導を受け完成した「縄文小屋」作りに迫る。



石ノミで丸太にホソ穴を空ける
 建物に使う柱、梁、桁、棟木材として、クリ木を石斧と伐採時間比較のため鉄斧で伐採
 平成26年度に出土した「ホソ付き部材」と真脇遺跡のこれまでの調査結果を基本として設計



ワークショップ その1
 ホソ穴の解説を受ける参加者。町内外、県外から68人も多くの人が参加した
 加工され整然と並べられた梁、桁、棟木
 きれいに空いたホソ穴。一つの穴を空けるのに10分程度の時間を要する



ワークショップ その1
 部材の組み上げ作業。建てる位置を決め柱穴を掘る
 体験メニュー。参加者はくさびを使い木を縦に割っていく
 体験メニュー。石斧を使って丸太の切込にチャレンジする参加者



梁、桁、棟木の順に組んでいく
 柱を建てる。使用した柱は3月に伐採・加工した材
 土盛り作業。輪の形に土を50°程度盛り、叩いて成形していく



割製材で板になった破風板にホソ穴を空け、屋中と破風を調整しながら取り付ける
 傾斜した屋根の途中に設置する部材、屋中を取り付ける
 森で伐採してきたさす材の皮をむき、ホソとホソ穴の加工を施して組み上げた



DATA

年代：3100～3200年前
(縄文時代晩期)

部材の大きさ：

長さ91㍉・幅16㍉・厚さ7㍉

「ほぞ」の大きさ：長さ10㍉・太さ6㍉



真脇遺跡から出土
「ホゾ付き部材」とは
「ホソ」とは木材を組み
合わせるために削り出し
た突起のこと。差しこむ
穴は「ホソ穴」と言います。
平成26年度に出土した
建築部材は、精巧に削り
出された「ホソ」を持つ
ていました。縄文時代の
遺跡から出土した「ホソ」
のある部材の発見は日本
で2例のみで、当時を知る
貴重な資料です。

完成から次へ

思い通りにはいきません

大工(山梨県)
あみみや
雨宮 国広さん

「人間の思い通りにはいきません」。そう話すのは山梨県甲州市の「雨宮大工」の雨宮国広さん、設計から完成までの3年間、縄文小屋作りを携わりました。雨宮大工店では、電動ノコギリなどの現代の道具は使わず、手作りの石斧などを使った、手仕事による住宅建築を行っています。

縄文小屋づくりは試行錯誤の連続でした。「限られた時間の中で、縄文時代の道具を使い全てを作るのは非常に難しく、現代の工具を使わざるを得ないこともありました」。「設計図があっても絶対に描いたとおりにはいかず、その都度素材、部材と向き合いうまくいく方法を探しました」と振り返ります。

しかし、手作業で多くの人と共に作業した縄文小屋の復元は、携わる人同士の絆を生み、時間を忘れるほど夢中になれる楽しさがあると雨宮さんは話します。「新旧の工具も人も、互いの良い所を出して調和したことで、完成に繋がりました」と思いを語りました。

みんなが集える縄文小屋に

真脇遺跡縄文館長
高田 秀樹さん



真脇遺跡縄文館の高田さんは完成した縄文小屋の前に「みんなが集う、集える縄文小屋です」と話しました。

縄文小屋を作ることになったきっかけは、平成26年度の発掘調査で「ホゾ付き部材」が出土し、縄文時代に高度な加工技術があったことが発見されたこと。この発見を検証する段階で「小屋」を作る構想が出てきました。小屋づくりを通して様々なことを検証しました。縄文人がいかにして丸太を「ホゾ付き部材」にし

たのか、時間や労力、加工方法や、その当時に使われていたと考えられている縄や服など多岐にわたりました。さらには、真脇遺跡の認知向上や交流人口の拡大などにも繋がるよう計画が実施されました。

完成した今、縄文小屋は町の過去を探る「検証」から、未来を探る「活用」のステージに変わりました。高田さんは縄文人が居住していた際の居心地についても考察しています。「縄文人と現代人多少違いますが、わたしたちが一泊もできないようなところで縄文人が生活していたと思いませんか」と問いかけます。

「日本一快適」なこの縄文時代の復元建物は、今後、体験学習やワークショップの場として活用されます。



屋根仕上げ作業。クリ木の半割り材を立て並べ、クリ皮を敷く
「縄文小屋」作りに使う技術の実演や植物繊維での縄・アングン作り体験などを行った
部材の組み上げ作業終了。完成イメージに大きく近づいた



茅の上、屋根上部から下に垂れかかった部材、千木に丸太を縛り茅を押さえる
茅葺き作業を屋根上部に行う。茅は軽トラック13台分にも及ぶ
クリ皮の上に捏ねた土を投げつけ、屋根の下部の下地を作る



妻壁作る。壁は茅の束を2層にして外面に杉皮を当てる
内部天井を仕上げる。防火・断熱効果をねらい、並べたクリ半割材の上にクリ皮、捏ねた土を載せた
屋根中央に笠木を載せて屋根は仕上がった



下屋は、下からクリ皮2層、杉皮1層、クリ皮1層の順に葺き、石で押さえた
出入口の上にある下屋を作る。クリ材の丸太で柱と梁、桁を組む
妻壁の完成



完成イベント
縄文小屋での活動に欠かせない「火」を起こし、真脇の子供達による太鼓の演奏などで完成を祝った
ワークショップ その3
柱と梁、桁を組んで、柱の根元を土で固める。屋根にヨシズを載せて出来上がった
ワークショップ その3
体験メニュー。縄文小屋横に休憩小屋を作った。柱穴を掘る参加者